



ぴっぴだより

No.8 2014.10.31

新しいぴっぴハウス、キャン・トル棟の工事が始まり1ヶ月が経ちます。ぴっぴの赤いホストの近くに、今回の工事に関係する看板が立っているのをご覧になりましたか？ 通常は無味乾燥なものですが、この看板は少し違います。枝で囲われ、どんぐりが沢山食べられている姿が描かれています。卒園児の森雅くんが、ぴっぴのために食べ物を付けてくれたそうです。

工事が始まる前に、軽井沢産業社長の土屋さん(森雅くんの叔父)と工事中のフェンスについて相談しました。安全性を考えると、しっかりしたフェンスで全体を囲ったほうがいい。でもどうしてか、工事が進まないように行かれています。子ども達から見て見えないように、建物や建物の様子を毎日のように見られるのは滅多にない機会。まして、ぴっぴの子でも運ばず大丈夫！というこころで、現在のような虎口で、簡易的に囲うためにしてもらいました。大きな重機を近づけて見ると、迫り感満点。「さーなー」「か、こいね！」と虎口の前で立ち尽くし、じっと見ていることもしばしば。キャン・トル棟の大工事もスタートし、少しずつ建物の形も見えてきます。11月中にはキャン・トル棟の使用できるようになり、年内にはぴっぴハウスも完成予定だそうです。

建物工事が進むのと同時に同時進行するように、保護者のみなさんでバナーを制作していただき、本当にありがとうございます。お忙しい中、たくさん時間を割いて企画・準備してくださったこと、心より感謝しています。卒園児の保護者のみなさんや、保護者の方のご両親までも協力してくださったこと、ぴっぴが豊かになったなかで育まれていることと改めて実感しました。参加したスタッフから、たまやかや、和やかな雰囲気だったと聞きました。多様な特技を持ったみなさんが、エネルギーをぐんぐん寄せ合ったことが、心地よい空間、時間をくれたのだらうなあと想像しています。準備もはかどって、また「わかちあひ」の時々のではないでしょうか。

5月から始まった「森づくり」も11月9日が今年度の最後となります。子ども達の身体にちょうどいい具合の長椅子、荷物を置くのに重宝しているバレット、使用済みのいい物置、どんぐりになるたけと愛かぶる丸木の海賊船…。朽たつ木を見事に倒し、丸く切り株椅子にしていただきました。子ども達が快適にあそぶように草や木を処理していただきました。たくさんのお力を貸してくださったこと、本当に沢山の力が貸してくださりました。ありがとうございます。最後は、雪が降っても大丈夫のように荷物置き場を完成させます。ぜひご協力ください。

最近、つくづく多くの方のおかげで現在のぴっぴは成り立っている人たこと強く感じています。そんなぴっぴに9月には継続の、10月には新入園の中心があり、来年度は新入園児11名、継続児25名の合計36名の子ども達が、ぴっぴの森で暮らします。ご家族、スタッフも含めて100名を超えるおともぞろおともぞろ家族。そんなぴっぴで自己活動が仕事や存分にできていることが、本当によろこびに感じています。今日この頃です…。

慎之介

おおきくみだより ♪

二学期に入り、心も体もぐんぐん大きくなっていく人たち。ひとつひとつのプログラムを、びから楽しみ、木や土や水も乗り越えて、一歩ずつ着実に大きくなっていきます。子ども達のやりとりに見守る中で、どんな声かけが必要だったのか、声をかけて良かったのか…。と日々反省と自分へ問いかけています。

今年のぽろぽろの夏のキャンプでのエピソードです。1年生の男の子が朝食のパンを地面に落としてしまいました。そしてその男の子はパンを洗い始めました。大人には想像のつく結果がありました。「パンは洗って食べるものじゃないんだ。」ということを知った男の子は経験しました。私はその一連の話をあてて聞いて、ハッとしました。私だったら「パンは洗わないよ。洗えないよ。」と言ってしまったに違いない…。と思ったのでした。その後、あやつにスリッパを履きました。パンを洗った男の子が今度はスリッパを落としてしまいました。私はその場において男の子に「これは洗ってもいい？」と聞かれたので「それは大丈夫だよ。」と答えてしまいました。すると近くにいた高学年の女の子たちが「味は薄くなるけどね〜」とつぶやいています。女の子たちはきっとどこかでスリッパを洗う経験をしたのだらう。味が薄くなるなんて経験したから思うことでは。

「それは大丈夫だよ。」の声かけもいらなかったのではないかと考えてしまいました。今、この時しか出来ない経験が、たくさんある中で、言葉かけの多さで子どもは自ら学ぶ機会を無くしてしまうのではないだろうか…。とても小さなことではあるが、私にはそう感じたのでした。

おおきくみのある時、大勢で戦いごっこをして遊んでいて、突然大きな声で泣きだした人がいました。周りの人は「泣かせたのはおしじやない」「おれは違う」という中で一人たたずむ男の子がいます。その男の子と泣いている人とのトラブルだとは思いましたが、周りの人たちのその態度に不快な気持ちになり、思わず声をかけてしまいました。するとひとりひとりが「話し合うか!」と言いました。みんなは「何を話し合うの?」という雰囲気。ただ泣いている人に「だいじょうぶ?」「どこかいたい?」と寄り添ってほしかっただけで…。「話し合うか!」は私の「何で知らんぷり?」に答えただけのことでした。結局、戦いごっこをしていて後ろから押した!というのが理由でした。

声をかけてしまったことで解決の糸口が見つけられなくなってしまうことがあります。戦いごっこやヒーローごっこで想像をふくらませて、なりきって楽しんでいる男の子たち。〇〇くんの持っている棒が当たった。ぶつかって倒れた…。泣いた…。それは戦いごっこをしているのだから仕方がないのです。これからいっしょに友だちと泣いたり、怒ったり、泣かせちゃったり、怒らねたりする関わりの中にひとりとして無馬太なことはなく、小さな積み重ねが、おおきな力になっていくのだと思います。

大きな力をしていないか、確言言ったら、少しその人たちにまかせてみてよかったです。自分の声かけの在り方を考える機会でもありました。

:美穂

🌱 田畑だより

真冬晩 冷えてきましたね。今年は見出しのほか早く霜が降り、ずいぶんツブーンとやっぴりの葉っぱがらにやぶりやにたっしてしまいました。麦の種まきをしていると、カエルトらは早くも土に潜って冬の準備を始めています。

たんぼのはせかけをしたお米は、下いぶが乾いてきました。はせかけしている最中に2度と台風に見舞われたのはネカめ21、鼻ネカの台風でははせかけが一本倒れし稲が下にたまた水に浸かっしてしまいました。その後の台風でもかたり雨に濡れし、本来なら2~3週間脱穀できるのですが、一月近く干すことになってしまいました。はせかけで逆さに干されたお米には、茎の部分のうまみや甘みがじんわりじんわり下りてくるようです。お日さまの光に照らされている稲わらをさわるとほろりと温かくいいにおい、ゆっくりとお日さまを浴びてきつとお米は少しづつおいしくなっていることでしょう。

今週末に予定している脱穀では、足踏脱穀機という、昔の農家で使っていた、立派な農機具を使って稲わらからお米を外す作業をします。脱穀のあとは籾ありといふもみ殻一 お米の外側に付いている殻をとる作業をして、やっと食べられる状態のお米になります。

ぴっぴでぴかぴかの新米を食べられる日ももうすぐですね！

: 美和子

ひのひの森の動物たち あしあとを探れど？

かさこそ、こそこそ... 足元にふんわりと落ち葉の季節。森を歩くといろんな葉っぱの音が聞こえてきます。さて、今月の動物の足跡は？ 書き忘れ？ と思われたかたもいたのではないのでしょうか。

実はその動物、生後2日目にしてさかさまにふらさがることができ、木の枝を自由自在に這うので、地面におりることはほとんどありません。またねむりネズミ、まりねずみとよばれ、1月~5月の7ヶ月もの間冬眠してしまうので雪の上の足跡を見つけることも難しいのです。という訳で足跡がなかったのです。

では、その動物とはい何でしょう。それは、天然記念物でもある「ヤマネ」です。ヤマネは冬眠の工夫がとても変わっていて、穴を掘るのではなく、食糧をためることもなく、森のそのあたり(落ち葉の下や木のうろなど)に転がってこるん。と眠ってしまうのです。ただし、眠っている時は、まるで氷のように冷たく、たんと体温は10℃ほど、呼吸も30分に1回！(とみると死んでいるようにみえるかもしれせん。なので、無呼吸帯に？ 落ち葉の下に眠ってしまうのでしょうか。この方法で氷河期時イタから生き返ってきたのですから、ヤマネにとっては、良い方法なのではないでしょうか。

落ち葉の上を歩いていたら、こるん!! と丸丸に眠っているヤマネに出会うかも!? かもしれせんよ。

: 菜々恵

